

和歌山大学  
経済学部同窓会

http://kourowakayama.com

# 柑芦わかやま

南出陽一(高商7回・故人)筆

柑芦会和歌山支部

編集発行人 坂本 漸

〒640-8567 和歌山市西汀丁36

和歌山商工会議所2階

山中盛義事務所内

T E L 073-423-1231

F A X 073-433-4066

## 和歌山大学経済学部創立100周年記念行事が開催されました

令和5年10月28日「わだいフェスタ2023」の開催とあわせて、和歌山大学経済学部の100周年記念行事が開催され、経済学部同窓会「柑芦会」の皆様を中心に多くの参加者が集いました。



本山学長式辞



金川経済学部長式辞



旭堂南海氏による口演

旭堂南海氏による口演、講談『和歌山大学物語』が披露された後、歴代の経済学部長及び北村会長等「柑芦会」関係者による座談会が実施され、これまでの経済学部の沿革を振り返るとともに、経済学部の今後の展望について意見交換が行われました。

(大学HPより)



金川 経済学部長      マグレビ元経済学部長      藤永 元経済学部長  
北村 柑芦会会長      青柳 前柑芦会会長      原 前後援会長

## 柑芦会和歌山支部「令和5年度・支部総会」開催のお知らせ

開催日時：令和6年6月29日(土) 午後1時30分～受付

開催場所：ダイワロイネットホテル和歌山 4階

① 支部総会：午後2時～午後3時

② 講演会：午後3時半～午後4時半

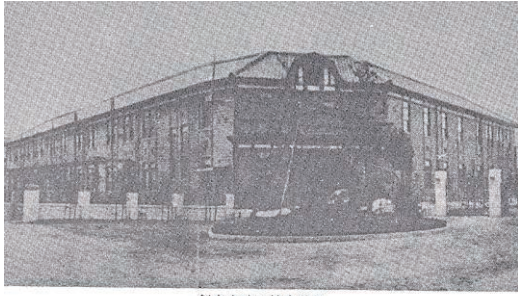
講師：和歌山大学経済学研究科客員教授 垣見祐二氏(柑芦会東海支部長)  
テーマ：「エネルギーの安全保障と企業経営」

③ 懇親会：午後5時～午後7時

懇親会会費 8,000円アトラクション：宝子ミニコンサート

なお、出欠の連絡を事務局電話(073-423-1231)か左記E-Mail(支部事務局メールアドレス:kourowakayama@gmail.com)宛、5月31日までにご返事賜りますようお願い申し上げます。なお、出席連絡には「期別」・「氏名」・「連絡先(携帯電話等)」の記載をお願いいたします。





創立当時の校舎前景

和歌山大学経済学部五十年史より  
創立当時の校舎前景



開宴前に辻均さん（神戸支部 20 期）が率いる  
和太鼓集団「ホっと太鼓」による祝い太鼓の演奏



北村柑芦会会長乾杯



和歌山大学経済学部 100 史  
1922（大正 11）年 10 月  
和歌山市関戸（現・西高松）  
に和歌山高等商業学校創立  
（※開学は 1923 年 4 月）

経済学部創立百周年祝賀行事の様子はテレビ和歌山でも放映されました。

### 当日午前中には「わだいフェスタ 2023」が開催されました。

秋の晴天に恵まれ、暖かく爽やかな気候の中、和大的卒業生・同窓生、在学生、教職員等の「和太関係者」約300名が参加し、「現在（いま）の和歌山大学の魅力を発信」を目的として、学長・理事及び和太OGの現役アナウンサーによるシンポジウムや、現役学生の生の声による和歌山大学の魅力紹介等が行われ、キャンパス内がにぎやかな雰囲気となりました。（大学HPより）



学長・理事及び和太OGの現役アナウンサーによるシンポジウム



留学生による、国際交流カフェ



クリエ「ソーラーカープロジェクト」の学生メンバーが、ソーラーカーの国際大会が開催されているオーストラリアからサプライズ参加



現役学生の生の声による和歌山大学の魅力紹介



**令和5年6月24日(土)和歌山大学 柑芦会 和歌山支部  
令和4年度定期総会が、ダイワロイネット和歌山で開催されました。**

令和5年6月24日、和歌山城公園前のダイワロイネットホテルで、会員30名の参加を得て定時総会、講演会、懇親会を開催しました。

大学から本山学部長、金川経済学部長が、柑芦会からは北村会長はじめ大阪・京滋・神戸支部の方々がお越し頂きました。また懇親会には5名の留学生が参加下さいました。

総会では前年度の事業・決算報告と今年度の事業・予算計画が了承されました。

講演会は和歌山大学紀州経済史文化史研究所の吉村准教授から、「和歌祭り」の来歴と和歌山大学との関連など、和歌山在住者でも殆ど知らない興味深いお話を聞かせて頂きました。

懇親会では本山学長から同窓会活動への期待など、金川学部長からは経済学部100周年事業開催などのお話を伺いました。また、毎回恒例の教育学部平成11年卒の宝子さんのライブを楽しみ、最後に、これも恒例の寮歌「花の霞に」を全員で合唱して終わりました。

坂本支部長挨拶



懇親会場風景



紀州経済史文化史研究所の吉村先生の朗読

宝子さんのライブ

参加留学生の紹介



「柑芦わかやま」を保存されている方へのお願い  
 編集部で保管している「柑芦わかやま」は、平成4年第4号、平成19年第19号、平成25年第28号、平成25年第29号、平成26年第30号、が有りません。お持ちでしたら連絡を下さい。 編集部事務局 渥美正道 090-8533-6614 E-mail:atsumi@beach.ocn.ne.jp



## 特集 大災害に備える

—和歌山大学の防災研究・教育の取組み—

和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus  
災害科学・レジリエンス共創センター

塚田晃司 (センター長) システム工学部教授

坂本 漸 支部長 (大学8期)

塩路茂一 副支部長 (経短6期)

南海トラフ大地震の発生確率が高まっていると言われます。温暖化のせい、気候変動による災害も増加しています。

同窓、大学、地域の連携を標榜して活動をしている、柑芦会和歌山支部にとっても、「大災害に備える」は大きなテーマの一つです。

一昨年の支部総会では、本校の鈴木裕範先生に「紀伊半島の歴史に学ぶ災害、問われるコミュニティ」と題してご講演を頂き、過疎山村での水害の歴史や、地域の取組みをご紹介頂きました。

災害は、人類史そのものと言えるくらい、超巨大なテーマで、僅か数枚の紙面で語れるものには有りませんが、母校和歌山大学や同窓生の取組みの一端を紹介させて頂く事で、支部会員の皆様に、今一度、災害への備えを固めて頂きたいと考えております。

### 1. 本センターはどんな機関ですか

<https://www.wakayama-u.ac.jp/disaster/>

紀伊半島地域で起きる自然災害に対して、(レジリエンス) 復旧・復興してゆく力を(共創)で、地域社会と連携して、防災・減災

に取り組む

センターそのものは大きな陣容ではないが、災害関連の教職員の、研究とか地域の繋がりとかを、学内連携し取りまとめる組織として運営している。



2. 本校では様々な部門で多くの先生方が、災害問題に関わっておられます。本校の取組みの分野や傾向と言ったものが有ればお聞かせください。

東大や京大では、防災関連で一個の学部くらいの規模を有するが、本センターでは理工系の先生の科学技術、人文系の先生の自治体や地域住民との連携などの取組みを活かし、大きく4つのテーマで活動を行っている。

### 1. 観光地防災の社会実装研究

鉄道などの公共交通機関利用客の避難訓練や、大地の成り立ちを学ぶ防災ジオツアー等

### 2. 防災・減災・復興の担い手づくり

大学での防災・減災関連講義の充実や、防災士養成プログラムの実施など

### 3. 防災を通じた産業イノベーション

防災マップ作製アプリケーションソフト開発や、無線通信技術を利用した河川水位観測システム開発など

### 4. 和歌山大学の更なる防災力強化

大規模災害が発生した場合、大学も被災することを前提に、被災学生への対応など、地域の社会福祉協議会との連携や、学内に災害ボランティアステーション設置など

### 3. 地域や諸機関との連携体制をお聞かせ下さい

また、同窓生へのメッセージ、或いは、期待するものをお聞かせください。

県下唯一の国立大学として、和歌山県・市と連携し、和歌山県下をフィールドとして災害発生



のメカニズムの研究や、減災の研究、災害時の対応、和歌山市社会福祉協議会ボランティアセンターとの協定など、県下の諸機関と連携している。

和歌山市郊外の高台に広い空間を有する立地を災害時の救援に活かすため、令和4年6月、自衛隊和歌山地方協力本部と連携・協力に関する協定を締結した。

大学敷地内に災害時に必要な機材が保管してあり、令和4年11月、和歌山大学×社会福祉協議会×青年会議所の三者で、64人（内学生7名、教職員8名）が参加して災害支援合同訓練を実施した。



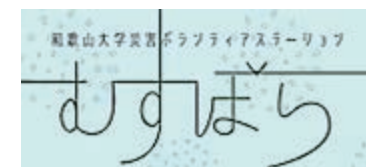
また、本センターは紀伊半島価値共創基幹に属しているように、地元は大阪南部も含めており、岸和田サテ

ライトでも防災関係の講義など行っている。今年3月に同サテライトで行った防災士養成講座には約104名の受講生（内本校学生は9名）があった。

同窓生との連携について、和歌山大学同窓

の人脈を生かしてお互いが助け合える関係があれば良い。後方支援の募金などの関係が築けると有難い。

お話を伺ったシステム工学部棟6階から見える  
パラボラアンテナ 地球も小さな星の一つ  
今のところ唯一生命を宿す



正式名称：  
和歌山大学災害  
ボランティア  
ステーション

愛称：むすぼら（結ぶ+ボランティア）×和歌山弁で「ら」は勧誘の助動詞 むすぼら＝結びましょうの意味です。

3.11 東日本大震災の後でできた学生が主体となって自ら考え取り組む自主組織で、現在の登録者数は学生と教職員で約200名である。

令和3年10月、和歌山市の水道橋が崩落した時の給水ボランティア活動は記憶に新しい。

<p>参加無料</p> <p><b>7月20日(水)昼休み 防災体験学習会</b></p> <p>シンボルゾーン と 第一食堂横ラウンジ にて</p> <p>お気軽に体験してください</p> <p>予約不要</p>	<p><b>地震体験車</b></p> <p>ごりよう君 がやってくる!</p> <p>シンボルゾーン</p> <p>7/20 11:30-13:30</p>
<p><b>消火器訓練 で 打ち水</b></p> <p>シンボルゾーン</p> <p>7/20 11:30-13:30</p> <p>提供: スキル研修ワーキンググループ</p>	<p><b>車いす 介助・避難体験</b></p> <p>一声かける勇気につながる体験</p> <p>・車いすに乗ってみよう ・正しい字を押してみよう</p> <p>学生会館前 (ゆうちょATM前)</p> <p>7/20 11:30-13:30</p>
<p><b>むすぼら 相談デスク</b></p> <p>・むすぼらって何をしているの? ・むすぼらに入ってるけど、活動できてないなあ</p> <p>シンボルゾーン 総合案内デスク内</p> <p>7/20 11:30-13:30</p> <p>そんなあなたに! むすぼらの魅力お伝えします</p> <p>提供: 広報ワーキンググループ</p>	<p><b>瞬間冷却バック 実験</b></p> <p>冷蔵庫がなくても冷たくなる!!</p> <p>ミニ冷却剤をプレゼント</p> <p>第一食堂横ラウンジ</p> <p>7/20 11:30-13:30</p> <p>提供: 地域活動・環境活動ワーキンググループ</p>
<p>映像上映</p> <p><b>いまここでできる 災害支援を考えてみた</b></p> <p>令和2年7月阪南地区から2年経った 阪南の復興川流域の「今」がわかる</p> <p>第一食堂横ラウンジ</p> <p>7/20 11:30-13:30</p> <p>提供: 演習棟・情報学棟ワーキンググループ</p>	<p><b>防災かるた</b></p> <p>第一食堂横ラウンジ</p> <p>7/20 11:30-13:30</p> <p>提供: 地域活動・環境活動ワーキンググループ</p>

(同センター パンフレットより引用)

卒業生の著作紹介

「多事彩彩 — 昭和九年生まれの伝言」  
北 道子 (経済5期)

(和歌山大空襲と 28 大水害の思い出を記されて  
おられる個所の一部を抜粋させて頂きました。)

「焼け跡」

その日が暑か  
ったかどうか、  
記憶にない。た  
だ、くすぶり続  
ける黒焦げの焼  
け跡に、夏の日  
が変に白く照っ  
ていたのは憶え  
ている。

昭和二十年七  
月九日。この日、  
和歌山市は米軍の空襲によって焼き払われた  
のだ。

前日の午後十時頃発令された空襲警報は、  
この日に限って、日付が変わっても解除にな  
らなかった。それどころか、いったん遠のい  
た B29 の爆音が、再び圧しかぶさってきた。  
いつもと様子がちがう。

突然、爆弾の炸裂音があたりを揺るがした。  
続いて、ザザアアという、トタン屋根を竹箒  
でこするような音がした。その音はだんだん  
激しくなり、間断なく繰り返される。焼夷弾  
だ。ときどき、ドーン、ドーンと爆発音が響  
き、頭上の土がぱらぱらと落ちてくる。

防空壕の中で父母と叔母、姉、それに私の  
五人は身を縮めていた。 (中略)

それから約五十年後、あの兵庫南部大地震  
から半月近くたったある日、私は神戸市長田  
区の焼け跡に立っていた。傾いた黒焦げの電  
柱、垂れさがる電線、焼けただれた瓦礫、知  
人の消息を尋ねてやって来た神戸で、私は再  
び、戦争末期の故郷の町で見たのと同じ焼け  
跡に出くわしたのだ。



もうたくさんだ、こんなことが繰り返され  
てはならない。哀しみとも憤りともつかぬも  
のがこみあげた。

「集中豪雨」

昭和二十八年七月十八日未明、和歌山県の  
尾根一帯を雷鳴を伴った豪雨が襲った。

和歌山市内では、雨は夜明けとともに小降  
りになり、まもなくすっかりあがったため、  
たいした被害はないものと思われた。だが、  
実は、この雨は未曾有の大水害をひき起こし  
ていたのだ。(中略)

毎日新聞翌十九日の朝刊では、日高川下流  
の御坊をはじめ各町村の住民三万人の安否が  
気づかわれていること、有田川流域の箕島町  
は「全て濁流に呑まれ」、御霊村では推定三百  
名の死者、河口の初島沖では押し流された八  
十余の死体発見、熊野川沿いでは「本宮・清  
川両村は全滅」と、被害地域が拡大している。

有田川の安諦橋付近の住民の目撃談として、  
奥地から流されてきたらしい筏に約二十人の  
人が乗って、助けを求めながら押し流されて  
行き、行方不明になったことが報じられてい  
る。

二十一日夕方、日高郡川上村から御坊に辿  
りついた人は、同村の死者百二名、重軽傷八  
名、行方不明百二十名、十九日から救援依頼  
の使者五名を次々に送ったがみな行方不明と  
なり、自分だけが到着したと語った。

「仲間たち」

(前略) このとき、和歌山大学学生自治会  
は学内だけでなく、広く帰郷学生に呼びかけ  
て救援同盟を組織した。これに応じて集まっ  
た帰郷学生のなかで目だって多かったのが、  
私たち星林高校五期生だった。私たちは、そ  
の年の三月、高校を卒業したばかりだった。

本部が置かれた和大経済学部にも最も家が近  
かった私は、会計係に選ばれた。

午前五時、迎えの学生が自転車を押して来  
る。集まってきた人たちは手分けして、前日

決めたとおりに必要な支援物資をかついで出発する。交通費や買い物代を渡すのは私の役だ。

彼らが出て行った後は、当日の行動計画が待っている。救援物資と募金をどこでどう集めるか、集まったお金で何を用意するか、被災地の要求に応えるために必要な手立てを、昨日の総括会議をもとに考えて、三々五々やってくる救援活動参加志望者に割り振っていかねばならない。被災地の情報収集も、明日に向けての資料作りも必要だ。

被災地へ行けない者は、二人一組で支援物資や募金を集めに回る。片道一時間以内ならリヤカーや大八車を曳いて、それより遠い所へは自転車で出かけた。街頭募金も行った。「水害地救援学生同盟」と墨書した鉢巻きと腕章、それに<sup>のぼり</sup>幟が身分証明書だった。



NHK 和歌山放送局・令和5年7月18日(火)  
18:30~19:00「ギュギュッと和歌山」  
番組の内容は、今から70年前の1953年(昭和28年)7月18日に発生した「紀州大水害」に関する取材番組で、この話は、柑芦会俳句の会「芦火」の同人でもある北様(俳号・草炎)が、俳句誌「芦火」にエッセイの一部を掲載したのを「芦火」編集長・穂永千秋様(17期)が、和歌山大学「教養の森」センターの橋本唯子准教授で紹介したのが発端。  
後日、NHK「おはよう関西」でも取り上げられた。

## 濱口梧陵のこと

### 稲村の火を紹介した和歌山大学の先輩

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の英語による作品を、濱口儀兵衛(梧陵)が創設した耐久中学校の卒業生で、和歌山県師範学校に在籍していた中井常蔵は、英語テキストでこの物語「A Living God」を読み、感銘を受けた。中井常蔵が翻訳・再話した児童書が、文部省の教材公募に入選し、1937年から10年間、国定国語教科書(国語読本)に掲載され、「稲村の火」として全国に知れ渡った。

濱口梧陵がその生涯で携わった活動は多岐に亘る。濱口梧陵と3つの「防」より抜粋

<https://rmcaj.net/labo/chibakagaku70/>  
「初代内閣官房安全保障室長の佐々淳行氏は、国家が取り組むべき危機管理の範疇として、「防衛」「防災」「防犯」「防疫」を挙げています。これらの4つの「防」のうち、3つの「防」に取り組んだ人物がいます。濱口梧陵です」

<中略>

「濱口梧陵は、防災面での「安政南海地震の津波からの避難誘導」と「広村堤防の建設」だけでなく、防疫面では「銚子でのコレラ防疫」と「お玉ヶ池種痘所の再建への寄付」、防衛面では「広村崇義団の結成」と「広村稽古場の設立などを通じた教育事業」に取り組んだ」

(1866年 広村稽古場を耐久社と命名。1908年、耐久中学校と改称される。)

フェイスブック・グループ

柑芦和歌山(こうろわかやま)に参加しよう!!  
和歌山大学と同窓生の地元和歌山での活躍を  
発信・記録しよう!!



## 「和歌山」の学生は 災害とどう向き合ったか 北 道子 (和大・経済学部五期生)

選抜高校野球の参加校一覧表を見て、驚いたことがある。和歌山の代表校二校と、徳島・三重・北海道の代表校のみが道・県立校、他は私立校だったことだ。

これはどういうことだろうか。私学より公立校の方が野球が盛ん？貧乏県なので私学が作られない？よくわからないが、和歌山の二校がいずれも公立校だったのは、和歌山県の特色を、ある面でよく表しているように思う。

和歌山は、災害の多い県である。私の在住期間には「台風銀座」と呼ばれていたように、戦前の室戸台風を始め、戦後のジェーン台風、第二室戸台風等々、多くの天災に遭遇した。同時に「稲むらの火」として有名なように、災害を知恵と勇気で未然に防いだ例も多く伝えられている。

それだけ和歌山の先人たちは、天災の恐ろしさを知り、知恵を絞ってそれに対処してきたのであろう。

一九五三年七月、大水害のときはどうだったか。この時、私は大学一年生、初めてのアルバイトで中学生対象の「高校摸試」の監督、採点を済ませ、バイト代を受け取って帰ろうとしたときに、当時の学生自治会会長のAさんに呼び止められた。これが「水害地救援学生同盟」とのかかわりの初めだった。

この水害の実態をリアルに伝えてくれた高校時代の友人の証言を紹介しよう。彼の家は有田川の上流の村。和歌山市内の親戚の家に下宿し、そこから高校へ通った。進学後ももちろん下宿生だったが、夏休みに帰郷していたのだ。彼は言った。

「いつもは山の裾をちよろちよろ流れている有田川が、見ている間に、わあーっとせりあがってきた」そう言いながら、彼が身震い

したのを忘れない。生の発言は貴重である。記録には、もっと生の声を積極的にとり入れるべきだ。

この時の学生自治会の優れた点は、水害の大きさを把握し、それに対処する為に、和大学生だけでは足りないと、帰郷学生全部を対象に救援活動への参加を呼び掛けたことだ。だから私のような一年生でも「高校時代の友達を誘うぐらいなら」と参加できた。そしてそのことが、大学を超えた広がりとなって、多くの学生を呼び込むことになった。集まってきた皆が初めての体験で、だから大学がどこであろうと自分の考えを述べ、自分にできる範囲のことを、自分の力を精一杯に出して、活動出来たのだ。

誰も経験者はいない。すべてが今、ここにいる皆で作っていかねばならない。そのとき、私たちは先人の行動を思い出し、お互いの知恵を出し合って進むより、道はなかった。だから皆、救援に出向いた者がすべて帰ってくるまで待ち、自分たちの経験を語り、翌日の救援に備えたのだ。毎日の総括会議は熱気に包まれた。ここで話し合ったことが明日の活動の方針を決める。それが、明日の自分の活動につながる。わからないことは聞いておかなければならない。それでも、わからないことがある。最近 NHK テレビで当時の私たち活動が紹介されたが、あの時、御坊までどのようにして行ったかだ。

それが、最近になってわかった。写真に写っている M 氏が、「船で行った」と言っていたと、取材に行った人から聞いたのだ。納得がいった。電話で確かめた。本人は入院中なので、夫人から教えてもらった。疑問の一つが解け、ほっとしている。(姫路市在住)





## 災害はいつ発生するか、わからない 「私の水害の思い出より」

柑芦会和歌山支部副支部長  
塩路茂一（経短6期）



水害によって自宅が半壊となった時、床上から1.5m位まで水位が上がり、ドロ・ゴミ等が山積し、後片付けは家族だけでは、どこ

から手を付けたら良いのか、深刻な状態だった。

その後片付けの“神様”が自衛隊の隊員で、その助けで災害後十日程で除去されたことは、有難く本当に生きる力を与えてくれた。この苦しかった体験は私が中学一年の時の出来事である。

今日、国内で起きる自然災害は、一つは水害、二つは山崩れ、三つは地震・津波に大別できる。

災害が生じるたびに、防災関係者で被災の現状を分析し、事後対策が進められているが、7・18水害を思い出すたびに、現状はこれで良いのか、新しく取り組む対策はどうすべきか、いろいろと思いつかせる事が多い。

最近の自然災害が多発する現状の中で、経験した者でないと伝えられない被災の実情を、後世の人の防災・減災に役立つよう、忘れず伝えることも自分たちの務めだと思っている。

今年の一月元旦の能登半島地震発生から早や三カ月が経過した。さらに東日本大震災から十三年と、歳月が過ぎてゆく。私の長い人生の中で昭和28年「7・18水害」（紀州大水害）は一生、忘れることはない出来事である。

この7・18水害は紀伊半島で10日間、雨量が700ミリを越す大雨となり、県内で一千人を越える死者・行方不明者が出る県史上最悪の大災害となった。私の住む御坊市内でも日高川が氾濫し、市街地の広い範囲で床上浸水し、旧御坊町では浸水深が2メートルに達し、野口は壊滅状態となり、死者・行方不明者220人に達する大きな被害を出した。

幸いにも我が家は、近くで堤防が流失したことで半壊に近かったが、今でも忘れることが出来ないのは、近所の宅が新婚早々に初荷が届いたばかりで、それが流出した悲しい思い出が一生忘れることが出来ない。



写真は  
和歌山大学経済学部  
創立65周年記念誌  
昭和28年の頁より

## 自衛隊との防災協力

柑芦会和歌山支部副支部長  
株式会社ヤマシン 代表取締役  
山本 進三(大経 39期)

令和4年6月8日、和歌山大学は自衛隊和歌山地方協力本部と連携・協力に関する協定を締結しました。この連携協定は、将来、起こると予想されている南海地震の備えとして、また地域防災意識を高め地域防災に貢献する人材を育成する手段として大きな役割を果たすと考えます。

南海地震は、大きな津波が伴うため、和歌山市であっても最大で8mの津波が来ると予想されています。また地震が起こった際には地面の液状化が懸念され、道路網が寸断されて避難活動や物資の輸送も困難になる可能性があります。

和歌山県に救助活動を行う自衛隊の主力部隊は大阪和泉市にある陸上自衛隊信太山駐屯地第37普通科連隊であって、大阪より和泉山脈を越えて和歌山まで救助に向かうこととなります。そのため和歌山まである程度の距離があり、被災地の近くに新たな拠点を設ける必要に迫られます。

このような状況で、自衛隊がスムーズに震災の救助活動を行う際、十分な海拔があり津波の被害を免れる高台で、大阪から物資を運送しやすい幹線道路の近くにあり、救援・物流の拠点を設けるだけの広いスペースがある場所が必要となります。

和歌山大学のキャンパスは上述の条件に適合している理想的な場所で、自衛隊が拠点として活用することで紀北エリア(和歌山・海南)の救助活動を迅速に行うことができるようになります。

また南海地震に備えるためには、地域全体での連携が不可欠です。和歌山大学と自衛隊の連携はその一翼を担うだけでなく、学生や地域住民の防災意識向上にも貢献します。今回の連

携協定が締結された結果、陸上自衛隊第3師団長の荒井正芳陸将が大学キャンパスで講演が行われ、防災に関する授業も自衛隊和歌山地方協力本部の協力を得て内容が充実したものにアップデートされました。

自衛隊の技術と経験、大学の知識と資源が結集することで学生や一般市民の防災の知識が深まり、自主的な避難準備を行っていただくことで、より効果的な防災・救助活動が展開されることができるようでしょう。

今回、和歌山大学と自衛隊和歌山地方協力本部との間で交わされた連携協定は、国立大学と自衛隊という公の組織が手を結ぶ全国でも初の連携協定であり、いわゆる「縦割り行政」になりやすい行政機関同士の関係において、防災という共通の課題のために協力し、横のつながりを深めた良い事例となったことを追記しておきます。

最後に、和歌山大学の前理事として、また自衛隊を応援する任意団体、和歌山県防衛協会の会長代行として、今回の協定が結ばれたことを嬉しく思います。

「君子は治にいて乱を忘れず」と言われますが、和歌山大学が自衛隊と共に防災協力を行うことで、地域社会になくてはならない大学としての地位を今まで以上に高められていくことを期待します。



和歌山大学と自衛隊の連携・協力協定により、南海トラフ地震時には、災害拠点として和歌山大学の敷地を自衛隊が利用できる他、防災・減災に関してのリカレント教育他、様々な分野での連携を行うこととなります。

国立大学では全国初の連携協定です❤️

## 水を制する 治水と利水

— 先人の足跡を訪ねて —

編集委員 16期 渥美正道

日、月、火、水、木、金、土 生まれてこの方この周期を重ねて生きて来た。曜日の名称は紀元前2千年程に中国で成立した陰陽五行説に由来という。

日～土、七つはいずれも、生命の生存に重要な役割を担っている。和歌山はこの多くに恵まれた土地だが、近年は鉄鋼や鉱油(石油)などのような(金)偏産業が振るわない。

さて、水は日～土の真ん中に位置する、生命の生存に大層重要で、生命は水辺で繁殖し、人間もまたしかりである。だからこそ、水の脅威を防ぎ、水の恩恵を活かす、治水・利水に古来人々は力を注いできた。

### 井沢 弥惣兵衛 (1654～1738 海南市)

「幼い頃から計算能力が高く、土木技術についての才能に恵まれていました。28歳で2代藩主光貞に召し抱えられ、5代藩主となった吉宗にも仕えました。同じ土木技術者の大畑才蔵と共に小田井用水(約33km)や藤崎井用水(約24km)などの工事を手掛け、紀州流土木技術を開発。優れた技術により、海南市の亀の川を改修して新川を築き、その後亀池築造の大事業を成し遂げました。」「これらの功績が認められ、8代将軍に就任した吉宗に召された弥惣兵衛は、幕府の役人となり、関東平野の新田開発に着手。利根川と荒川を結ぶ見沼代用水(埼玉県)の難工事も見事に成し遂げました。」わかやま歴史物語100から



亀池の堤に立つ顕彰碑 (2023.5 撮影)

### 大畑 才蔵 (1642～1720 橋本市)

「学文路村の農家に生まれ、父の後を継いで庄屋となり、元禄9年(1696)、紀州藩の役人であった井澤弥惣兵衛為永により工事担当の役人に取り立てられました。この年から藤崎井用水の開削に取り組み、宝永4年(1707)には小田井用水を開削しました。「才蔵日記」や、「水盛帳」「地方聞書」などの資料によると、役人としての才蔵は、計算に強く、農政事務にも優れた実務家だったようです。そして、彼の願いは、少しでも農民の暮らしが楽になることでした。」

小田井用水 水土里(みどり) ネットから

「紀北の地に長い水路が二筋平行してのびています。一つは小田井といい、もう一つは藤崎井といいます。伊都、那賀、海草の三郡の肥沃な田野は、この二つの水路の恩恵を受け、そして、又、十万の人々もこの水の恩恵を受けています。これは大畑才蔵が水路を開発したおかげです。」粉河寺大畑才蔵翁彰功之碑文から



粉河寺境内に立つ顕彰碑 (2024.3 撮影)

### 「小田井用水路」

#### 世界かんがい施設遺産登録決定

小田井用水路 和歌山県橋本市・かつらぎ町・紀の川市・岩出市の農地を潤してきた小田井用水路は、平成29年10月10日、メキシコシティ(メキシコ)で開催された国際かんがい排水委員会(メキシコ)の第68回国際執行理事会において他の12施設うち日本3施設とともに、世界かんがい施設遺産に登録されました。

小田井用水 水土里(みどり) ネットから

# 和歌山ぶらくり会

FBグループ 柑芦和歌山



経費節約のため SNS/Eメールで  
開催のご案内を行っています。  
登録をお願いします。

## 開催の経緯

令和5年6月24日 和歌山支部総会

令和5年度の事業計画で「和歌山ぶらくり会」の開催に向けて活動の具体化が決定された。

令和5年7月8日 準備会

第1回開催について、日時、場所、行事内容、当日までの準備および当日の分担体制、参加呼びかけ、予算など、第1回開催に向けての概略を取り決めた。

令和5年8月26日 第一回開催準備会

第一回開催に向けての開催準備会メンバーの役割分担、グループメール・ライン等による打ち合わせ、当日の役割分担などを取り決め。

## 第1回「和歌山ぶらくり会」参加者27名

時間：9月16日（土） 開会 15:00～16:30 （受付開始 14:30）

場所：和歌山商工会議所 4階第1会議室（下図参照）和歌山市西汀丁36

内容：卓話「最年少新人議員の思い」 大学68期 和歌山市市会議員 辻本太一氏  
外国人留学生参加者の紹介とスピーチ

懇親会（参加希望者） 蘭香園（モンテグレ3階） 17:00～18:30 参加費 4,000円



## 留学生の皆さん

チュオン	シスエ、ハノイ工科大	李陌稀（リ ハクキ）	首都師範大学、交換留学生
フォン	ホーチン師範大、交換留学生	胡瓔容（コ エイヨウ）	首都師範大学、交換留学生
ルタ	イト、ティク マラジャトラ大学、日本語日本文化研修生	セシリア	インドネシア、リヌス大学 日本語日本文化研修生

**第2回「和歌山ぶらくり会」参加者25名**

時間：12月9日（土） 開会 15:00～16:30 （受付開始 14:30）

場所：和歌山城ホール 4階第1会議室（定員36名）和歌山市七番丁25-1

内容：卓話「[和大クリエ・ソーラーカープロジェクト オーストラリア 3000km 縦断レース初参戦の実録]」システム工学部 11期 小佐田 真克氏 株式会社 CuboRex 和歌山営業所 工場長 懇親会（参加希望者） キッチン・キャミ 17:00～18:30 参加費 4,000円

 <p>小佐田講師</p>	 <p>講演（卓話）会場風景</p>	 <p>懇親会 会場風景</p>									
<p>留学生の皆さん</p> <table border="1"> <tr> <td>ハサル</td> <td>モンゴル人留学生</td> <td>経済学部3回生</td> </tr> <tr> <td>ウルジ</td> <td>モンゴル人留学生</td> <td>経済学部3回生</td> </tr> <tr> <td>劉育伯（リュウイクハク）</td> <td>中国人留学生</td> <td>経済学部院2回生</td> </tr> </table>		ハサル	モンゴル人留学生	経済学部3回生	ウルジ	モンゴル人留学生	経済学部3回生	劉育伯（リュウイクハク）	中国人留学生	経済学部院2回生	 <p>留学生自己紹介</p>
ハサル	モンゴル人留学生	経済学部3回生									
ウルジ	モンゴル人留学生	経済学部3回生									
劉育伯（リュウイクハク）	中国人留学生	経済学部院2回生									

**第3回「和歌山ぶらくり会」参加者32名**

時間：令和6年3月9日（土） 開会 15:30～17:00 （受付開始 15:00）

場所：和歌山城ホール 4階 工房（定員36名）和歌山市七番丁25-1

卓話：「宗光と龍馬 未来への伝言」

講師：龍馬 World in 和歌山実行委員会 副実行委員長

片桐章浩氏（経済学部47期・大学院34期）

講師先生を囲む懇親会：会場 蘭香園（モンテイクレ3階）17:30～19:00 参加費 3000円

 <p>片桐講師</p>	 <p>懇親会 会場風景</p>	 <p>留学生自己紹介</p>
---	---	--

留学生の皆さん

蘇宇萌（ソ ウホウ）	中国	東北財経大学交換留学生	ギー	ブラジル	日本語日本文化研修生
陳安娜（チン アンナ）	中国	浙江師範大学 日本語日本文化研修生	ウルジ	モンゴル	経済学部3回生

「和歌山ぶらくり会」開催準備会メンバー

榎本凱斗（大経72期）、辻本太一（大経68期）、岡澤利彦（大経36期）、赤松良寛（大経29期）、山中盛義（大経28期）、糸川公偉（大経26期）、小瀧 信（大経20期）、渥美正道（大経16期 事務局 090-8533-6614 E-mail:atsumi@beach.ocn.ne.jp)

留学生寄稿

## 和歌山地域コミュニティとの結びつき

経済学部大学院 57期 蔡子杰 (サイ シケツ)

2018年より和歌山にて始まった私の生活は、すでに5年が経過し、和歌山大学の卒業を目前に控えています。この期間、私は単なる学問の追求だけでなく、個人的な成長と、多様な人々との出会いを経験しました。和歌山での日々は、学内外の人々との深い絆を築く貴重な機会となり、特に地域コミュニティとの強いつながりは、私に和歌山への深い愛着をもたらしました。



(本州最南端 潮岬)

この経験は、経済学的視点から見れば、地域経済と国際交流の重要性を体現しています。

留学生として、WIN コンコードなどの地元支援団体から受けた支援は、異文化間の交流の価値を高めると同時に、経済的相互依存の具体例として機能しました。和歌山の地域社会への感謝の気持ちと貢献は、観光や地元産業の振興を通じて、経済発展に繋がる可能性を示しています。

例えば、和歌山に初めて来た留学生にとって、夕陽百選からの美しい景色、新参者の鶏骨ラーメンの美味しさ、中国人にも評価される本格的な中国料理の小飯骨は、地域の食文化を国際的に宣伝し、観光客の誘致に貢献します。また、友人を連れて訪れた雑賀崎の漁港や、生石高原の自然溢れる景色は、地域の

魅力と経済価値を外国人にも紹介する絶好の機会でした。

これらの体験を通じて、文化交流と経済的観点からの地域貢献の重要性を学びました。大学での交響楽団への参加は、協働と目標達成の経験を通じて、個人的な成長だけでなく、組織としての成長を促しました。これらの経験は、和歌山での就職活動と新たな生活の章を開く上で、私にとって大きな動機となっています。今後、和歌山での経験を活かし、地域経済の発展に貢献していきたいと思っています。



(交響楽団の仲間達と)

和歌山大学国際同窓ネットワークのサイトができました！

<https://www.wakayama-u.ac.jp/blog/ian/>

国際同窓ネットワークは、「つながれ、WA」をコンセプトに和歌山大学の留学生ネットワークを広げています。こちらのサイトでは、本学元留学生に留学中エピソードや、現在のキャリアについてインタビューした内容をご覧いただけます



和歌山大学日本学教育研究センター サイトより引用

令和5年度会計報告

柑芦会和歌山支部

1. 一般会計の部

【収支計算書】

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

単位:円

収入の部				支出の部			
科目	予算額	実行額	摘要	科目	予算額	実行額	摘要
前年度繰越額	703,549	703,549		総会費	500,000	434,384	ダイワロイネット和歌山
会員年会費	480,000	720,000	3000円×240名、	支部ニュース発行費	250,000	205,977	「柑芦わかやま」46号
総会費	280,000	152,000	8000円×19名、	通信費	300,000	328,742	柑芦・柑芦わかやま送料等
柑芦会運営補助金	300,000	380,000	通信費助成金等	印刷費	60,000	49,005	案内状・封筒等印刷
預金利息	2	4	紀陽銀行普通	事務所費	120,000	120,000	支部事務所借室
支部活動収入	0	185,000	ぶらくり会参加費	会議費	30,000	6,050	
雑収入	10,000	163,000	総会祝金ほか	慶弔費	50,000	20,000	会員慶弔等
				支部活動費	0	366,433	ぶらくり会
				雑費	30,000	60,787	振込手数料、出張旅費等
				支出合計	1,340,000	1,591,378	
				次年度繰越金	433,551	712,175	
合計	1,773,551	2,303,553		合計	1,773,551	2,303,553	

【貸借対照表】

科目	令和5年3月31日	令和6年3月31日	摘要	科目	令和5年3月31日	令和6年3月31日	摘要
普通預金	443,679	629,922	紀陽銀行本店	正味財産	703,549	712,175	
当座預金	259,870	82,253	ゆうちょ銀行				
合計	703,549	712,175		合計	703,549	712,175	

2. 基金の部

【収支計算書】

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

単位:円

収入の部				支出の部			
科目	予算額	実行額	摘要	科目	予算額	実行額	摘要
前年度繰越額	754,592	754,592		就活・交流支援金	100,000	100,000	留学生/ソーラカー(各5万円)
雑収入	5	6	普通預金利息	次年度繰越金	654,597	654,598	
合計	754,597	754,598		合計	754,597	754,598	

【貸借対照表】

科目	令和5年3月31日	令和6年3月31日	摘要	科目	令和5年3月31日	令和6年3月31日	摘要
普通預金	754,592	654,598	紀陽銀行本店	正味財産	754,592	654,598	
合計	754,592	654,598		合計	754,592	654,598	

令和6年度収支予算書(案)

柑芦会和歌山支部

1. 一般会計の部

【収支計算書】

自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日

単位:円

収入の部				支出の部			
科目	予算額	昨年実行額	摘要	科目	予算額	昨年実行額	摘要
前年度繰越額	712,175	703,549		総会費	450,000	434,384	ダイワロイネット和歌山
会員年会費	600,000	720,000	3000円×200名	支部ニュース発行費	220,000	205,977	「柑芦わかやま」47号
総会費	240,000	152,000	8000円×30名	通信費	350,000	328,742	文書送付料外
柑芦会運営補助金	300,000	380,000	通信費助成金等	印刷費	50,000	49,005	文書外印刷費
預金利息	2	4	紀陽銀行普通	事務所費	120,000	120,000	支部事務所借室
支部活動収入	200,000	185,000	ぶらくり会	会議費	30,000	6,050	幹部役員会等
雑収入	20,000	163,000	総会祝金等	慶弔費	50,000	20,000	会員・大学慶弔支部祝金等
				支部活動費	380,000	366,433	ぶらくり会
				雑費	60,000	60,787	振込手数料、出張旅費等
				支出合計	1,710,000	1,591,378	
				次年度繰越金	362,177	712,175	
合計	2,072,177	2,303,553		合計	2,072,177	2,303,553	

2. 基金の部

【収支計算書】

自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日

単位:円

収入の部				支出の部			
科目	予算額	昨年実行額	摘要	科目	予算額	昨年実行額	摘要
前年度繰越額	654,598	754,592	紀陽銀行・普通	就活・交流支援金	100,000	100,000	留学生活動交流等支援
雑収入	5	6	普通預金利息	次年度繰越金	554,603	654,598	
合計	654,603	754,598		合計	654,603	754,598	

### 年会費お支払いのお願い

和歌山支部は支部会員の年会費により運営維持されています。年会費は 3 千円で、主に支部事務局の運営、柑芦わかやまの発刊に使われます。また本会の機関誌「柑芦」は原則として支部会費納入者に送付させていただいております。

お支払いは、同封の振込用紙（郵便局用と紀陽銀行用）のいずれかをお使いください。なお、ネット等の振込に関しては、下記支部の銀行口座をお願いいたします。その際にはお名前の前に卒期等（例：ダイ 60 コウロタロウ）を入れてください。

紀陽銀行 本店営業部 普通預金 789216

また、昨年より本部取扱いの支部会費納入も開始されました。別途取扱業者「(株)サルト」から「コンビニ収納依頼書」もすでにお手元に届いているかと思えます。

重複納付の方もありますので、上記「郵便局」、「紀陽銀行」・「コンビニ」のいずれかで納付いただきたくよろしくをお願いいたします。

(注) 平成元年(1989年)10月2日(月曜日)

柑芦わかやまニュース

創刊号

和歌山大学  
経済学部同窓会

# 柑芦わかやま

南出陽一(高商7回)筆

柑芦会和歌山支部  
広報委員会

編集発行人 山中 静  
〒640 和歌山市西汀丁36番地  
(和歌山商工会議所2F)  
TEL 0734-32-0375

### 編集後記

機関紙「柑芦わかやま」は、平成元年 山中支部長の時代に「柑芦わかやまニュース」の名で創刊されました。

当時幹事長をされていた南村元支部長は、支部が自前の広報メディアを持つことで、支部会員に同窓会活動への関心を喚起し、支部の隆盛と母校発展の原動力としたい、とその主旨を述べておられます。

時代は移り、広報は紙媒体から電子媒体に、郵送からネット配信に変わっています。

新しい時代を新しい陣容で担って頂くべく、今号をもって、現編集部は一旦解散とすることに致しました。

これまで、ご協力頂いた皆様にお礼申し上げますと共に、今後とも支部広報活動への変わらぬご支援をお願い申し上げます。

#### 編集委員

- 松野浩行 (23期)、山中盛義 (28期)、
- 岡澤利彦 (36期)、西川一弘 (50期)
- (事務局)
- 渥美正道 (16期)、渥美盛也 (47期)



## 今、なぜ「柑芦わかやま」なのか！

支部の活性化が叫ばれて既に久しい。会員相互の身近な交流のサロンとして、また生涯学習の教室として、気軽に語り合う場をつくり、ひいては母校の発展と後輩諸君の道標の役に立てば

と、高い理想を抱けて微力を尽してはいるが、大正十五年卒業の高商一回生から現在まで約二千七百名の支部会員を擁する大世帯にかかわらず、この運営を担う年会費納付者数は全体の約一割、総会の出席者となると更に二割に過ぎない忙しきである。

小学校のクラス会が同窓会では一番楽しいとの感想をよく聞くが、逆に言えば高専・大学になる程、同窓

会への関心が薄らぐものらしい。学歴を束縛して経済的に一歩踏み込むと、家庭や仕事にかまけて母校や恩師、学友とはいい遠くになるのも人の世の常。しかし、これには会の運営と情報伝達の至らなさに原因があった。大学の地元には在りながら、大阪支部広報委員会が編纂発行される「柑芦」に負ぶきって自前の広報メディアを欠いていたことは反省せねばなる

幹事長  
南村 桂太郎  
(17年回)

和歌山大学経済学部同窓会（柑芦会 こうろかい）和歌山支部

### 紀雲「書評」同好会

和歌山大学関係者で、本会の趣旨に賛同する方なら誰でも参加できます

開催日：毎月第4火曜日 午後2時～4時

開催場所：南海和歌山市駅横 和歌山市民図書館3階第2多目的ルーム

事務局：渥美正道(経済16期) 携帯：090-8533-6614 E-mail:atsumi@beach.ocn.ne.jp

